

授業改善推進プラン ～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

主体的に学習できる生徒の具体的な姿

- 1 学年・・・見通しをもって学習計画が立てられる生徒 “できた”という体験をたくさん経験している生徒
2 学年・・・家庭学習に取り組むことができる生徒 授業で挙手、自信をもって発言ができる生徒
3 学年・・・できない、分からないを認めて、質問する生徒 課題に粘り強く取り組み、解決できる生徒

教科	学年	主体的に学ぶ生徒の育成を目指した取組内容
国語	1 学年	宿題・小テストの予定表を配布し、自分で見通しをもって学習を進められるようにする。ワークシート等でその学習で何ができるようになったか確認できるようにする。
	2 学年	基礎的な練習問題を行う時間を設定するとともに、他者参照を促し、分からないところを自力解決できるようにする。
	3 学年	ワークシートを活用し、スモールステップで課題に取り組ませるとともに、解決できない課題を I C T を活用して質問ができるようにする。
社会	1 学年	小テストを実施し、授業プリント・ノートへの自主的なメモの記入を勧め、良かった生徒を定期的に紹介し、家庭学習（復習）に取り組む姿勢を重視する。
	2 学年	定期考査時にワークを確実に提出することを基本とし、知識・技能の習得を目指す。自分の言葉で記述する課題に、粘り強く取り組めるように個々に質問できる時間を設定する。
	3 学年	学習課題を生徒自ら設定し、課題発見から課題解決までを自分たちで行う授業を展開する。また、自ら学習を進めていく中で他者と協働を行いやすい環境を整える。
数学	1 学年	授業内の小テストを通して基礎知識の定着を目指す。また、既習事項を通して問題の解決方法を思考し、共有する学び合いの活動をする。
	2 学年	ワークとレポートの提出について見通しをもたせ、計画的に取り組めるようにする。良い考えについては、全体で発表させ、自信をもって発言できる雰囲気をつくる。
	3 学年	「問題がとけた」という達成感をどのコースの生徒にも感じさせるために、各コースの習熟度に合わせた小テストを毎時間実施する。
理科	1 学年	章ごとに小テストを実施し、基礎知識の定着を目指す。単元のまとめでは、学習内容や理解度について振り返りの時間を設定し、自らの到達度を評価する活動を行う。
	2 学年	実験・観察を通して結果をまとめ、考察し、生徒同士で議論を行い意見をまとめ、その内容をクラスで発表する活動を設定する。
	3 学年	実験・観察の結果を学級で共有し、自分の班の結果の妥当性について協議し、自分の考察としてまとめる時間を設定する。
音楽	1 学年	パート練習の方法を計画させ、振り返りシートを活用して 1 時間ごとに練習の成果を確認し、うまくいったことや改善点を明らかにして次時につなげる時間を設定する。
	2 学年	表現の方法等を自分で考え、他者の意見を聞き、自己の考えを深める時間を設定する。生徒が発言しやすい雰囲気づくりをする。
	3 学年	板書やタブレットを上手く活用し、他者の意見を参考に、自分の考えや他者の考えを総合して、より深い考えを表現できるような場を設定する。

授業改善推進プラン

～主体的に学習できる生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

美術	1 学年	毎時間制作の目標を授業の最初に提示し、その目標が達成できたかを振り返りシートに記入し、授業を自己評価する時間を設定する。
	2 学年	鑑賞の授業において、教科書等の作品資料を用いてそれをじっくりと鑑賞し、班や個人で自分の感想や考えを発信する「ディスクリプション」の時間を設定する。
	3 学年	わからないこと、できないことについて、生徒が主体的に質問できるように、机間巡視を行い、声掛けをする。振り返りシートの記入を継続し、質問できるようにする。
保健体育	1 学年	自分のルールを設定し、スモールステップで課題を振り返らせ、自己評価させる。ICT機器を活用して、友達との教え合い活動を実施する。
	2 学年	ウォーミングアップ（帯活動）を徹底して行うことで基本的な体力を身に付けさせ、自信をもって課題解決や話し合い活動に臨めるようにする。
	3 学年	仲間と協力して運動に取り組む楽しさを味わうために、チームや班で話し合い、練習方法などを選択する活動を充実させる。
技術	1 学年	作品の選択数を限定して製作させるとともに、曲面加工の形など、工夫できる個所を増やし、自分で考えて作り上げたという達成感をもたせられるようにする。
	2 学年	エネルギー変換の授業では、日本の発電状況や問題点を考えさせる。その学習をもとに各自が家庭においてどのようにして節電できるかを考え実践できるように導く。
	3 学年	情報のプログラミングの授業では、個人ではなくグループでプログラムを制作させ、お互いに質問し合ったり教えたりしやすい環境にする。
家庭	1 学年	実技では、タブレットや板書を活用し見通しを持って作業できるようにする。また個々の力を適切に見極めながら、スモールステップで課題設定し、振り返りをする。
	2 学年	学習内容を家庭生活での実践につながる教材を準備し、家庭への支援と声掛けを随時行う。どのような意見も大切であることを伝え、ワークシートにコメントを付ける。
	3 学年	鑑賞や話し合いの時間を設けるとともに、ほかの生徒の作品や提出物・感想や考えに触れる機会を設定する。
外国語	1 学年	①教科書の単語・連語の練習、教科書の音読の家庭学習を促すとともに、パフォーマンステスト(スピーチ、ALTとのスピーキングやペアで音読)を実施する。 ②自分で考えた後、ペアで話し合い、グループで確認し、全体で共有するという流れで授業を展開する。
	2 学年	①小テスト及びパフォーマンステストの実施、ノートなどの提出物のほかに、自分で進めていけるドリル形式のプリントを常備設置し、自主的な学習活動を支援する。 ②誰でも発言しやすいように、個別からペア、グループを経た話し合いのあと、全体での発言を求める授業展開を実施する。
	3 学年	①帯活動として、単語テスト・パフォーマンステスト実施前に、ペアでの練習、先生・生徒同士で質問・改善の機会や、タブレットで取り組む時間を設定する。 ②英作文添削については、定期的にタブレットで課題を出し、個々に添削をすることで間違いに気付かせ、修正したものを提出させる。